



核兵器全面禁止条約交渉開始へ 署名の大波を 茨城全体で8,752筆 (11/27 現在)

「原発いらない！」の声、ますます激しく

安全・安心めざす
有機農業者の声

今年も余すところ、あとわずかになりました。3月11日の大震災、それに続く原発事故と、私たち一般市民にとってはまさに晴天の霹靂(へきれき)ともいえる状況が続ききました。

「想定外の津波」とか、放射能レベルについては「人体に影響はない」を繰り返すばかり。それから間もなく九ヶ月が経つというのに、いまだに収束の見通しさえついていません。

真剣に有機農業に取り組んで来たのですが、福島事故以来、農業者は壊滅状態になつてしまいました。しかし、周囲の農業者に憤りを表す人はさほど見受けられません。



とりわけ原発事故後の経産省と原子力保安院、東電の発表には呆れるばかりです。

隠しおおせなくなつた情報を小出しにして来た政府は、事故の収束よりもTPPに加入することの方に執心の様子です。「忘れっぽい国民」に期待しているのかも知れませんが、全国各地で「原発No!」の声はますます激しくなつてきております。一日も早い収束に向け、さらに運動を強めましょう。

元気に6・9行動 龍ヶ崎原水協

「核兵器全面禁止のアピール」署名を毎月、新婦人と協力して取り組んでおります。

また、11月23日には平和広場において、『いがつぺ歩行者天国』のイベントの中、『東日本大震災と福島第一原発過酷事故』パネル展を実施しました。

現在は出荷停止状態ではありませんが、実際に測定してみると「暫定規準値」以内ではあつても、安全な野菜を目指してきた身としては、よしとするわけにはいきません。これからの私の人生は、東電・政府と闘つていくことに捧げるつもりです。

原発事故以来、農業・漁業は壊滅状態にされてしまいました。一日も早い原発の収束と復旧・復興、そして補償を求めます。

政府は今、反対がTPPのテールにつこうと、財界と共にやっきになつております。農業分野のみならず、例外的な関税の撤廃は、これこそ亡国の道ではないでしょうか。(北茨城市 Sさん)

来年の大会までのスケジュール

- 12月1, 2日 日本原水協担当常任理事会・県事務局長会議
- 12月10日 ちひろカレンダー締め切り
- 2012年 2月 日本原水協全国理事会・平和行進実行委員会結成総会
- 2月28日(火) - 3月1日(木) 2012年3.1ビキニデー
- 3月 県平和行進実行委員会結成総会
- 5.3 憲法フェスタ
- 5月 県原水協総会

県原水協加盟促進のお願い

- ① 県内平和行進の実行委員の登録をお願いします。(その際に、責任者及び連絡先をお知らせ下さい)
- ② 加盟団体地域から理事の選出と届出をお願いします。

ちひろカレンダーを被災地へ

原発事故から約 1ヶ月がたちました。いまだに収束が見えないなか、県原水協として福島原発被災地にカレンダーを送り、ささやかでも応援したいと思えます。寒い冬に向かつて、仮設住宅に「暖かい希望」を贈りましょう。

そこで皆様のカンパで一本千円をお願いいたします。さつそく土浦から17本の申し込みがあります。お申し込みはFaxで、県原水協までお願いします。貴重な財政活動ですので、ご協力よろしくお願い致します。

協までご連絡いただきたく存じます。



ちひろカレンダー

(定価1470円) をご購入下さい。

フォト・ジャーナリスト 森住卓さんの講演を聞いて 11月20日、県青少年会館に平和委員会主催でフォト・ジャーナリストの森住卓さんの講演を聞きました。中でも印象に残った三つのシーンがありました。

ひとつは原発事故直後、現地に入った森住さんたちの持っていた線量計が、セミパラチンスク以上の値を示したことです。二つ目に、酪農家がすべての原乳を捨て、その表面に写った月の写真でした。三つ目は、育牛農家が家族同様に育てた牛を屠殺場行きトラックに乗せ、涙ながら牛に謝っていたシーンでした。

私たちにできることは限られています。誰もが安心して暮らせるための努力を惜しまず、政府に働きかけていきたいと思えます。



森住 卓氏

「原発・正力・CIA原発で読む昭和裏面史 (有馬哲夫著)」新潮新書

1954年第五福竜丸事件以降、日本では「反米」「反核兵器」気運が高まっていく。そんな中、衆院議員に当選した正力松太郎・讀賣新聞社主とCIAは、原子力平和利用に好意的な親米世論を形成するための「工作」を開始する。原潜、讀賣新聞、日本テレビ、保守大合同、そしてディズニー。正力とCIAとの協力関係から始まった、巨大メディア、政界、産業界を巡る連鎖とは――。機密文書が明らかにした衝撃の事実。

書籍紹介



編集後記

福島原発事故は、今年も間もなく終わるといふのに、いまだ収束できません。福島はもとより、茨城県内各地も放射能汚染がひどい。いったいつになったら安心して生活できるようになるのでしょうか？

「原水協通信」のご購読のお願い

原水禁運動に関わる団体の皆さん。日頃からの運動に対し、お礼と感謝を申し上げます。県内の運動には様々な弱点があります。そのひとつに国際、国内の運動の情報や、情宣活動があります。県内各地での6/9行動などを十分に伝える意味でも、日本原水協が毎月発行している「原水協通信」を通じて皆さんとの結びつきを深め、情報を共有したいと考えています。

ぜひ、毎月1回6日発行で220円/月ご購読をお願いします。